

私が初めて大きな防災訓練に参加したのは、県防災士会設立翌年の2007年、つがる市で行われた県総合防災訓練だった。翌年からは青森市総合防災訓練にも参加、翌々年からは自衛隊にお願いして災害派遣活動などの研修も受けられるようになった。

県や青森市の訓練は参加人員が多く、消防、警察、自衛隊による訓練を初めて見た時はすごいと思った。しかし回を重ねると、シナリオ通りのイベントのようにも思えた。ところが自衛隊での研修は、実際の災害派遣活動担当者によるブリーフィング（簡単な状況説明・報告）に始まり、一般には目にしない災害救助、医療、化学機材などの説明や実演なども行われとても参考になった。また、昼食は部隊食を体験でき、参加員からは毎回絶賛されている。県内には、青森市に陸上自衛隊第9師団、むつ市に海上自衛隊大湊地方隊、三沢市に航空自衛隊三沢基地と陸海空がそろっているの、毎年輪番で研修を継続している。さて、10年前は物足りなかつた自治体の防災訓練は東日

避難所運営 住民ら研修

今月のお題
防災訓練様変わり



【写真上】県防災士会が開いた避難所開設運営研修会
【同下】「あおもり被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会」が開いた避難所運営訓練を紹介するパンフレット



本大震災を契機に、住民のための訓練へと改善されつつある。中でも取り上げたいのは、避難所運営訓練だ。かつては避難所へ避難する住民は大きな体育館へ20〜40人程度で、しかも単に避難所へ到着するまでだった。しかし大震災などで避難所の混乱がニュースで報じられるようになったせいか、近年は行政、町会、学校でも避難所開設・運営訓練が大掛かりに行われるようになってきた。

それらの中から、15年に「あおもり被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会（小山内世喜子委員長）」主催で開かれた「避難所運営訓練」を紹介する。私は副委員長として参加した。



海上自衛隊大湊地方隊での研修に参加した県防災士会会員ら

この訓練は同年8〜10月、青森市、八戸市、三沢市、おいらせ町、階上町で行われた。町内会や自主防災会が中心となつて地域住民と生徒が連携・協力して行われ、質の高い

訓練ができていた。災害は時と場所を選ばないので、防災訓練は夏場の好天時だけでなく、少なくとも夏と冬、できれば季節ごと1年4回程度やってほしい。そうすることにより、非常持ち出し袋の中身や、備蓄するべき機材や食糧が季節によって違うことに気づくはずだ。

とはいっても、これから防災訓練を考えている団体は何かから始めたらいいかよく分からないだろう。訓練がマンネリ化してきた団体や質の高い訓練・広域での訓練などを望んでいる団体もある。悩んだときは青森県防災士会のアドバイスを聞いてみてほしい。防災士会の事務局は青森市の県民福祉プラザ内にある。青森市、弘前市、八戸市、むつ市には支部もあるので気軽に相談してほしい。

（工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住）
※次回は3月21日掲載予定です。